



おかげさまで創業百十有余年。  
六代目金田展明が就任するまでの代々の代表の活動  
またカネダという企業としての動きをご案内します。

## 草創・創業期

1905年にカネダの歴史は始まりました。

## 金田油店時代

金田勝次は弱冠17才で  
3代目を継ぎました。

## 金田商店時代

「宮内庁御用達」になったこともあります。

## 金田油化時代

昭和49年(1974年)にコンピューターによる  
経理の計算事務合理化を実施しました。

## カネダ時代

カネダグループは今や油だけにとどまらず、  
素材・原料の専門商社の集合体となりました。

## カネダ新世紀

平成17年(2005年)創業100周年を迎え、  
カネダは新たなスタートをしました。

## HISTORY

---

# 草創・創業期

カナダ株式会社は、平成 17 年(西暦 2005 年)に 100 周年を迎えました。

「カナダ」の歴史を辿ってみますと、明治 3 年(1870 年)に開業した油の販売と両替商を兼ねる「升定(マスサダ)油店」の店主の長女金田つるが、明治 38 年(1905 年)に野呂由蔵と養子縁組して「升定油店」から分店独立し、今の東京都台東区浅草橋に「升由(マスヨシ)油店」の名称で油の販売並びに両替商を始めたのが「カナダ」の創業であります。

本店の「升定油店」は、東京浅草の雷門・浅草寺に向かって江戸通りを浅草橋を渡ってすぐ右の台東区柳橋(当時は浅草茅町)に店を構えておりましたが、江戸通りには当時から雛人形店の「吉徳」、西洋食器や洋傘販売などの有名店が軒を連ね、東京でも指折りの商店街でありました。明治 41 年(1908 年)発行の「新撰東京名所図会・浅草区之部」に「升定油店」が記載されています。また、昭和 44 年(1969 年)に刊行された日本を代表する作家松本清張の明治後期を時代背景として書かれた著作「小説東京帝国大学」の浅草茅町の場面に「升定油店」が登場しています。

「升定油店」は大正 6 年(1917 年)に閉店し、分店の「升由油店」がその営業全てを継承しましたので、「カナダ」は「升定油店」の草創から数えて 151 周年になり、金田展明社長は 6 代目の社長です。



創業者金田つる



金田由蔵

## 金田油店時代

大正 12 年(1923 年)の関東大震災で店舗、商品、家財の全てを焼失し、壊滅的な打撃を蒙りました。  
昭和 2 年(1927 年)にようやく新店舗が落成しましたが、昭和 6 年(1931 年)に 2 代目金田由蔵店主が逝去し、世の中が大変な不景気であったため、周囲から「このまま商売を続けるのは無理だ」という意見が多く出ました。しかし弱冠 17 才の後継者金田勝次が一大決心をして 3 代目店主に就任し、「升由油店」を「金田油店」に改称して世の荒波の中へ船出することになりました。

この当時は、アメリカに端を発した世界恐慌が日本にも波及して、銀行や民間企業の倒産が続出し、東京帝国大学を卒業しても 1 割位の人しか就職出来ず巷には失業者があふれ、加えて 2 年続きの冷害でお米が不作となり、農家は食べる物が無くなり木の皮や笹の葉を食べるといった悲惨な状態にありました。17 才の金田勝次店主は「金田油店」の復興と発展を固く心に誓い、毎日夜明けから夜遅くまで血眼になって必死に油の販売に駆け回りました。

昭和 8 年(1933 年)から昭和 13 年(1938 年)頃までは軍備拡張による需要増加で油業界の景気が上向き、「金田油店」はようやく不況を乗り切ることが出来ました。しかし昭和 16 年(1941 年)に太平洋戦争が始まり、次第に商品の供給が少なくなり配給制度になったため「金田油店」は開店休業状態になりました。

昭和 20 年(1945 年)に太平洋戦争は終わりましたが、すぐには販売する油の供給が間に合わず、社員の生活維持のため、やむなく兵隊の鉄兜で作った鍋を売ったりして急場を凌ぎました。昭和 22 年(1947 年)に東京江東区の舩(ハシケ)が接岸できる場所に倉庫と配送センター(現在の金田物流)を新築しました。



金田勝次(10代)



お祭り(昭和3年)

## HISTORY

# 金田商店時代

昭和 23 年(1948 年)には、それまでの個人経営では活動に限界があるので「金田油店」を株式会社組織に変え、資本金 150 万円で「株式会社金田商店」を設立し金田勝次が社長に就任しました。現在「カナダ」の資本金は 1 億 5000 万円になっております。



スポーツオイル(金田で製造・販売)



本社前初荷出荷(昭和20年代)

終戦後の一時期には油脂取扱いの経験を生かし、スポーツオイルやポマードなどの製造・販売を行いました。宮内庁にスポーツオイルをお買い上げ頂いて「宮内庁御用達」になったこともあります。

植物油・石油共に統制経済のもとで配給制になりましたが、昭和 25 年(1950 年)に統制が解除になったので、直ちに味の素(株)、日清製油(株)、日本水産(株)、旭電化工業(株)、日本石油(株)などの日本を代表する油脂、石油メーカーと折衝して、製品の販売特約店になり、現在の「カナダ」の基盤を築くことができました。

さらに油脂・食品・石油の販売に加え、将来の発展を熟慮して昭和 26 年(1951 年)からは化学品の販売を開始し、以後取扱商品の種類は年々増加し、それまでの食品、塗料、印刷インキ業界だけに留まらず、現在では石油業界、化粧品業界、医薬品業界、電子・電気業界など幅広い業界の多数のお客様にお取引を頂いています。



金田勝次(右)



金田商店

昭和 27 年(1952 年)には、堅実な取引を行なってきたことが日本銀行に評価され「金田商店」が発行する手形は、当時の中小企業では大変名誉で珍しい「日銀再割適格手形」に認定され、その実績と信用は今日にまでおよび、現在「カナダ」は公共機関より、情報提供を求められる事もあります。

昭和 29 年(1954 年)から都内にガソリンスタンドを開設し、昭和 41 年(1966 年)には自動車専用エレベーター付のパーキングビルを開設するなど時代の流れに沿った営業をしてまいりました。

昭和 34 年(1959 年)に大阪、昭和 35 年(1960 年)には仙台、昭和 37 年(1962 年)名古屋に営業所を開設して全国販売のネットワークを築きました。さらに昭和 50 年(1975 年)には福岡にも営業所を開設しました。

昭和 39 年(1964 年)からはお取引先を招き、毎年経済講演会を開催しており、現在では「正月のカナダの新春講演会」として定着し、毎回 700 名前後のお客様にご出席頂き大変ご好評頂いております。

## HISTORY

# 金田油化時代

昭和 42 年(1967 年)には金田商店から「金田油化株式会社」に社名変更しました。  
昭和 43 年(1968 年)からエアゾール式電子機器用局部冷却剤「ポイントクーラー」や  
電子機器用洗浄剤「リベ」の製造・販売を行い、超音波精密部品洗浄機などの機械類の販売も開始しました。  
昭和 45 年(1970 年)には食品用パッケージ商品の販売に取り組み、包装資材の販売を開始しました。

一方昭和 44 年(1969 年)に当時の金田勝次社長が、油脂の販売業者で運営する  
東京油問屋市場の理事長に選任され、次いで昭和 47 年(1972 年)に全国油脂販売業者連合会会長に就任し  
油脂業界の発展のために尽力し、種々の方策を実行いたしました。  
昭和 50 年(1975 年)には東京江東区に流動パラフィンのブレンド及び充填工場を新設し、  
お客様の要望にマッチした商品の納入が可能な体制を整えました。



創業60周年記念(昭和40年)



深川倉庫



創業70周年記念(昭和50年)

昭和 52 年(1977 年)12 月 5 日発行の日経産業新聞の「積極商法で老舗を守る」という特集に、「金田油化」はニーズを先取りして積極的に新商品の開発・販売に取り組んでいる企業として紹介され、また昭和 54 年(1979 年)1 月 27 日の日本経済新聞には「取引先を招いて講演会」という見出しで、写真入りの記事が掲載されました。昭和 53 年(1978 年)には「東京都内で 100 年以上にわたり努力し、今日も立派に栄えている企業 98 社」の内の 1 社として東京商工会議所から表彰されました。この中には富士銀行・第一勧銀(現みずほ)、日本経済新聞、資生堂、三井物産、三越、吉徳など日本を代表する錚々たる有名企業が名を列ね、受賞は大変な名誉でありました。

金田勝次は、永年油脂業界の発展に尽力している功績により昭和 53 年(1978 年)に藍綬褒章を授章し、昭和 60 年(1985 年)には天皇陛下より勲四等瑞宝章を受勲致しました。

この間に社員が増え、事務所が手狭になったため昭和 55 年(1980 年)に 6 階建ての社屋を新築し、それまで別のビルに分かれていた各部門が一緒に仕事ができるようになり、働く場所が一層健康的で能率的な良き環境になりました。

一方「カナダ」は早くから事務の合理化に取り組んできましたが、昭和 49 年(1974 年)にコンピューターによる経理の計算事務合理化を実施し、その後富士通のマイコンを導入し総務部門を中心に活用を始めました。そして昭和 59 年(1984 年)から新しいコンピューターシステム「KOSMOS」が稼働し販売管理、財務管理に威力を発揮し、その後経営戦略に役立つ高度利用を目指しました。



金田油化ビル(昭和55年)

## HISTORY

# カナダ時代

昭和 60 年(1985 年)に金田油化から「カナダ株式会社」に社名を変更し金田達明(現会長)が社長に就任しました。

平成 2 年(1990 年)にはコンピューターシステム販売・ソフト開発会社「クレシード株式会社」を子会社として設立し、「カナダ」は商品の販売に情報という付加価値を付けて活動できる情報化時代に沿った専門商社としての体制を作り上げました。

海外との取引では永年ヨーロッパからオリーブ油、アメリカから流動パラフィン・ワセリンなどを輸入し販売してまいりましたが、昭和 63 年(1988 年)にアメリカアイオワ州のフェアビューファームからビントン大豆の輸入販売を開始しました。

農場主のチェンバー氏がビントン大豆売り込みに初めて来日し、

「自分は百姓だが是非自分自身で日本へビントン大豆を輸出したい」と言う熱心な提案がありました。

昔から新商品の開発に熱心に取り組む「カナダ」は取引を開始しました。平成 10 年(1998 年)には現地のフェアビューファームで大豆取引 10 周年記念パーティーを開催し、現在も「カナダ」が販売している大豆は、お客様から幅広く支持されています。

### ●新春経済講演会



平成 3 年(1991 年)「カナダ」は「升定油店」の草創から 120 周年になり、また金田勝次が 17 才で家業を継承してから 60 周年になるので、正月の恒例の新春経済講演会を今回は記念の講演会とし、約 800 名のお取引先をお招きしてホテルオークラでパーティーを開催しました。

この年には、社員皆が集えるサロンとして「スピカサロン」が金田達明の発案で別館 6 階にオープンしました。入口で 200 円以上のチャリティーを払えばドリンク無料で、社員同士やお取引先との懇親の場として利用されています。

海外との取引が活発になりましたので、平成 9 年(1997 年)に国際部を新設し、営業各部門の輸出入業務、依頼のあった海外商品の調査など海外の取引先との折衝業務を一手に行なえる体制にいたしました。これにより「カナダ」の海外の取引先との交渉や輸出入業務が迅速・確実に行なわれるようになり、取引の拡大に大きく寄与しております。

この年には全社員を繋ぐパソコン PC-LAN による Lotus Notes を稼働させ、瞬時に全社員が情報を共有できる情報網を構築しました。また、「カナダのホームページ」を開設し、さらに平成 12 年(2000 年)には PB 商品のインターネット通販を目的としたホームページ「油屋ドットコム」を開設しました。

この間、平成 10 年(1998 年)に金田達明は東京油問屋市場の理事長に選任され、丁度東京油問屋市場が創立 100 周年を迎える時期でしたので、記念行事に取り組み指揮を執りました。平成 12 年(2000 年)には全国油脂販売業者連合会会長に就任し、日本の油脂業界発展のため尽力いたしました。平成 16 年(2004 年)には 2 度目の東京油問屋市場理事長に選任されております。

平成 10 年(1998 年)には東京江東区金田物流敷地内に医薬品の充填が可能な GMP 基準にも対応した「カナダ福住工場」が完成しました。当初はお客様からのオリーブ油委託小詰め充填でスタートし、平成 11 年(1999 年)には「医薬品製造許可証」を取得して局方品の充填も開始しました。平成 13 年(2001 年)には深川カナダビル内に「テストキッチン」を新設し、実際にパンやクリームなどを試作してお客様へ提案し評価をして頂く体制を整えました。また、従来からある「品質管理室」を拡充して局方品の製造・分析・に万全を期し、一層のご信頼を頂ける体制を構築いたしました。



パン焼機(テストキッチン)



カナダ福住第2工場



金田油店

平成 14 年(2002 年)には日本薬局方流動パラフィンを製造する「カナダ福住第 2 工場」を新設し稼働いたしました。一方、平成 11 年(1999 年)には「ミスタードーナツ」ショップの運営を開始し、「大和店」をオープン、その後「八王子店」、「八王子みなみ野店」をオープンしました。

平成 13 年(2001 年)には「世界の油」(現在店名:金田油店)ショップを別館 1 階にオープンし、沢山の種類の油を展示・販売し好評を博しております。平成 15 年(2003 年)にはテレビジョン放送局の取材を受け、「日本テレビ・どっちの料理ショー」や「テレビ東京・アド街ック天国」で「世界の油」ショップが日本全国へ放映・紹介されました。

平成 15 年(2003 年)には横浜で第 1 回の「化粧品産業技術展」が開催され、「カナダ」は各種の化粧品原料を展示出展し、多数のお客様からお引き合いを頂きました。



品質管理室

「カナダ」は会社の質を向上させるための努力を続けてまいりましたが、平成 13 年(2001 年)には品質の世界標準規格である「ISO 9001」を取得し、翌年には環境に関する「ISO 14001」を取得しました。「Co・advance」のモットーのもと、世界に通用する質の高い会社を目指して鋭意努力を続けております。

平成 16 年(2004 年)にはカナダコンピューターシステム「KOSMOS」を、従来よりも飛躍的に多機能の情報量を処理出来るようにインターネットの「K-NAV」に統合し、稼働いたしました。

# カナダ新世紀



金田達明

平成 17 年(2005 年)創業 100 周年を迎え、カナダは新たなスタートをしました。

9 月には 100 周年記念プロジェクトの一環として次の 100 年に向けてのアクションを起こすために、カナダの基本的価値を基に未来永劫変わることない社会的使命であるミッションを掲げ、そこへ邁進するための目標であるビジョンを制定する「ビジョン委員会」を発足させました。

完成したカナダミッション・ビジョンは平成 17 (2005) 年 1 月 4 日の仕事初めに金田達明(現会長)より発表されました。

この年の新春経済講演会は、100 周年記念とし規模を拡大して中曽根康弘先生を始め 850 名を超えるご来賓をお招きして、今までお世話になった方々に感謝を伝えると共に盛大にお祝いをさせて頂きました。



100周年新春講演会



平成 17(2005)年 1 月には地域貢献の一環として浅草消防署が推進する「災害時における地域協体制づくり」において、カナダ株式会社は「浅草橋新福井町会」との間で「防災時協力に関する協定」を締結しました。他にも氏神様である「銀杏岡八幡大祭」への参加協力など地域の活性化にも力を注いでいます。



8 月には、全国の油脂業界関係者が古くから祈願に参拝する京都大山崎に鎮座する離宮八幡宮において、日本で初めて搾油が行なわれたのが貞観元(859)年の 8 月 23 日であることに由来して、この日を「油の記念日」を制定しました。以来毎年 8 月 23 日には油問屋として創業したカナダも「油の記念日」に賛同して浅草橋の金田油店を開催場所の中心としてイベント活動を行っています。



油祖離宮八幡宮

事業では、医薬化粧品産業部を専門分野ごとにそれぞれ化粧品事業部、医薬医療材事業部、医薬原薬事業部と新たに流動パラフィン事業部の 4 の独立組織として再編し更なる専門分野の深掘りを始めました。10 月には金田達明(現会長)が全国油脂販売業者連合会会長に選出され金田勝次名誉会長に続き油脂業界の発展に尽力しました。

平成 20(2008)年、カナダの中では古くから油以外でのソリューションを展開している「包装物流資材部」が事業の拡大と市場背景から「産業マテリアル部」と変更し新たなスタートを切りました。

また、BCPの一環として、遠隔地のデータセンターでのシステムバックアップ開始し、東京本社の災害時には遠隔地でのシステム稼働により最短 1 日で停止 1 時間前の状態から業務の再開を可能としました。

平成 22(2010)年 7 月からお客様からの要望に真摯に応えるため品質保証室を設置しました。

8 月には、従来からある品質管理室を高品質な医薬品に対応すべく東京都江東区の深川事業所内に新たに GMP 対応の「品質管理棟」を竣工しました。抗癌剤も取り扱うことが可能になり、お客様に安心を与えられる原材料の安定供給体制を構築しました。

12 月には営業活動強化を図るため本社機能のうち営業部門を東京都中央区日本橋本町に移転しました。

また、平成 23 年(2011)年 3 月にはカナダ初の海外拠点として、鵬商貿易(上海)有限公司を設立しました。鵬商貿易(上海)有限公司は中国で活動されているお客様への流通機能強化とサービス向上のため、中国国内での営業認可を取得した上で同年 8 月 1 日より営業業務を開始しました。



品質管理棟



鵬商貿易(上海)有限公司



金田達明



金田康男

10 月には、金田勝次に続き、金田達明(現会長)が全国油脂販売業者連合会会長としての食品卸売業振興功勞に対し「旭日小綬章」を受勲致しました。

平成 24(2012)年 6 月に、金田達明は 28 年間の功績を残して会長に就任し、金田康男が社長に就任しました。

そして 8 月には本社機能全般を東京都中央区日本橋本町に移しカナダ新世紀を迎えました。浅草橋本社はグループ会社の金田商事株式会社とクレシード株式会社が入居しています。

平成 28(2016)年 3 月に、流動パラフィンの安定供給を強固にする為、物流経路や災害時等を考慮し岐阜県土岐市に「中日本メディカル工場」を開設しました。

同年 11 月に、食品の販売や卸など物流産業への貢献、地域等活性化運営が評価され、会長の金田達明が日本食糧新聞社制定・農林水産省後援による食品産業功勞賞【流通部門】を受賞しました。

平成 30(2018)年 8 月に、バンコクに「バンコク駐在員事務所」を開設しました。

令和 2(2020)年 6 月に、金田展明が社長に就任しました。



バンコク駐在員事務所



金田展明